

JCOMM *news*

日本モビリティ・マネジメント会議ニューズレター

平成29年度JCOMM賞発表!

JCOMM実行委員会では、平成29年度JCOMM賞の各賞受賞者を選定致しました。受賞者の方には第十二回JCOMMにて、表彰を行います。

マネジメント賞

エコ通勤90%増を達成！豊橋市役所職員を対象とした10年間のモビリティ・マネジメント
豊橋市

プロジェクト賞

NPO法人再生塾による10年間にわたる総合的な交通政策の実現を担う人材育成と支援の取り組み
NPO法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾
産官学民の連携・協働による、地域にふさわしい、住民目線で身の丈にあった持続可能なおでかけ交通「ぐるっと生瀬」の運行とまちづくり
西宮市、「ぐるっと生瀬」運行協議会、阪急タクシー株式会社、猪井博登、中央復建コンサルタンツ株式会社、国土交通省神戸運輸監理部兵庫陸運部、国土交通省近畿運輸局

デザイン賞

仙台市地下鉄東西線各駅周辺散策マップ
仙台市青葉区役所まちづくり推進課
仙台市青葉区役所まちづくり推進課
仙台区役所まちづくり推進課
地蔵山探検隊
片平のお宝探検隊
仙台市八木山市民センター
大和市、片桐暁、齋藤綾、中原慎二、筑波大学公共心理研究所

技術賞

モビリティ・マネジメントにおける動機付け情報の態度変容効果の実証分析
藤本宣(清水建設株式会社)
谷口綾子(筑波大学システム情報系)
谷口守(筑波大学システム情報系)
藤井聡(京都大学大学院工学研究科)

JCOMM会議 全体プログラム

7/28 [金曜日] 【開催地企画】10:00~12:00 【九州のエリアマネジメントとMM戦略】

- 講演(40分)
「天神・博多のエリアマネジメントとモビリティ」
清水 信彦氏(西日本鉄道(株) 上席執行役員 自動車事業本部長、We Love 天神協議会 前理事長)
- パネルディスカッション(80分)
「エリアマネジメントとモビリティ」
コーディネーター:坂井 猛氏(九州大学大学院 教授)
パネリスト:清水 信彦氏(前掲)
中嶋 敬介氏(博多まちづくり推進協議会事務局長、JR九州事業開発本部企画部担当部長)
守田 剛氏(福岡市住宅都市局都市計画部長)
八尋 和郎氏((公財)九州経済調査協会 事業開発部長兼BIZCOLI館長)

【オープニングセッション】13:00~14:35

- 1.開会式(13:00~13:05)
藤井 聡(JCOMM代表理事、京都大学 教授)
- 2.祝辞(13:05~13:15)
佐々木 良氏(国土交通省 九州運輸局長)
- 3.特別講演(13:15~14:15)
「九州福岡が目指すゲートウェイの景」
坂井 猛氏(九州大学大学院 教授)
- 4.JCOMM授賞式(14:15~14:35)
・デザイン賞(1件) ・技術賞(1件)
・プロジェクト賞(2件) ・マネジメント賞(1件)

休憩(14:35~14:40)

【ポスター発表A・口頭発表ツール展示】
14:40~16:00

【企画セッション】16:00~18:00 「公共交通のリスクマネジメント」

コーディネーター:溝上 章志氏(熊本大学大学院先端科学研究部 教授)
情報提供:本田 和久氏(国土交通省九州運輸局交通政策部長)
中島 英明氏(九州旅客鉄道(株)新幹線部工務課長)
河合 賢一氏(九州産交バス(株)取締役・管理本部長)
若菜 千穂氏(NPO法人いわて地域づくり支援センター事務局長)

【意見交換会】18:30~20:00

7/29 [土曜日] 【口頭発表 1】9:00~10:00 「教育・成長とMM」

【企画セッション】10:10~12:00

「モビリティ・マネジメントの担い手を育む」
コーディネーター:原文宏氏(JCOMM顧問、(一社)北海道開発技術センター 理事)
情報提供:本田 豊氏(NPO法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾 監事、兵庫県阪神南県民センター 西宮土木事務所河川砂防課長)
大井 尚司氏(Qサブネット世話人、大分大学経済学部准教授、国土交通大学校 講師)
高山 純一氏(K.cat 代表、金沢大学理工研究域 環境デザイン学系教授)
伊地知 恭右氏(NPO法人まちもびデザイン 事務局長、(一社)北海道開発技術センター 研究員)

休憩(12:00~13:10)、JCOMM総会(12:00~12:30)

【ポスター発表B、口頭発表ツール展示】13:10~14:30

【口頭発表 2】14:30~15:30
「地域課題に挑むMM」

【クロージングセッション】15:30~15:45
主催者挨拶、次回開催地挨拶

(二社) システム科学研究所



社団法人システム科学研究所は、昭和47年(1972年)に、言葉と思考の道具としてのシステムの科学を研究し、地域・経済・文化・技術など、システムの開発と応用・利用を研究するシンクタンクとして誕生し、今年45周年を迎えました。設立当時は、社会基盤整備を礎とした高度成長の時代を迎え、モータリゼーションの急速な普及にもなつて総合的な交通システムの樹立が喫緊の課題となつた時代でした。初代会長故米谷栄二京都大学名誉教授、二代目会長故佐佐木綱京都大学名誉教授の薫陶を受け継ぎながら、「昨日の危機に対処する」だけでなく、「今日と違う明日をつくる」ことを目指して活動しています。

モビリティ・マネジメントについては、マネジメント賞を平成19年度に受賞した京都府の「かしこいクルマの使い方」を考えるプロジェクト京都「や、平成24年度に受賞した京都市の「歩くまち・京都」実現に向けたスローライフ京都大作戦(プロジェクト)」を、お手伝いしています。ちなみに、日本で最初にガリバーマップを使ったMMのワークショップは、平成17年の京都府の取り組みだそうです(松村暢彦愛媛大学教授・談)。

MMが飛躍的に普及した理由の一つに、MMに携わった人々の達成感があります。達成感を感じることが出来るのは、MM施策が有効であるからだけではなく、自分が携わった

施策の効果をすぐに実感できるためです。今日の交通システムは複雑化しており、すぐに改善できることは多くありません。新たな道路や鉄道の整備には長い年月を要しますし、自分が携わった仕事の成果を実感できる機会が減少しつつあるのではないのでしょうか。そのような状況において、MMは効果が短期間に発現しますし、さらにTFPの自由意見などを通じて、住民から取組に対する評価や感謝の言葉をもらう機会もあります。本ニューズレターの読者諸氏が、自らMMに取り組みを通じて、地域にとって望ましい交通の状況の実現に一步一步近づき、そしてその過程でわずかながら達成感を味わっていただければ幸いです。



日本で最初にガリバーマップを使ったMMのワークショップ [平成17年度]



歩くまち・京都

京都市都市計画局歩くまち京都推進室 計画推進課長 矢内 克志

京都市では健康・環境・観光などの幅広い観点から、人と公共交通優先の「歩いて楽しいまち」の実現を目指して平成22年1月に基本理念としての「歩くまち・京都」憲章を制定し、憲章の理念を実現するための具体的な取組を定めた「歩くまち・京都」総合交通戦略を策定しました。「歩くまち・京都」総合交通戦略では非自動車分担率を現在の72%から、80%以上にするを目標達成水準とし、目標を達成するための3つの取組として、①既存の公共交通を再編強化し、使いやすさを世界トップレベルにする「既存公共交通」の取組(例:京都駅八条口駅前広場整備事業)、②歩く魅力を最大限に味わえるよう歩行者優先のまちをつくる「まちづくり」の取組(例:四条通歩道拡幅事業)、③歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルに転換する「ライフスタイル」の取組を互いに連携させながら相乗効果を創出するよう推進しており、その結果、市内の非自動車分担率は高い水準を維持しています(京都市独自調査結果:平成28年度約78%)。

そのなかでも、戦略の3つ目の柱である「ライフスタイル」の取組では、クルマに頼りすぎない暮らし(スローライフ)への転換の促進に向けて、平成21年度から「スローライフ京都」大作戦(プロジェクト)を展開しています。

こうした「ライフスタイル」の取組を積極的に実施していることから、例年実施している京都観光総合調査における日本人の入浴利用交通機関別数では、マイカーでの入浴割合は減少を続けており、平成21年度は30%でしたが、平成28年度は9.3%となりました。

また、地域が主体となったMMの実施により、新たな路線バスの運行や路線バスの増便に至った例が多くあり、公共交通の利便性向上につながっています。

本プロジェクトは、着実な公共交通利用促進効果をもたらしており、①広範な取組、②「歩くまち・京都」のコンセプト、③専任部署を設置することで政策の連動性・継続性を高めたこと、④効果を高めるための様々な工夫が高く評価されて、平成24年度にJCOMMマネジメント賞を受賞しました。

受賞を励みとして、一連のプロジェクトを継続・改善するとともに、今後も、交通事業者等と連携しながら継続的かつ総合的・体系的に大規模なMMを展開していきます。



京都駅八条口駅前広場整備事業



四条通歩道拡幅事業

編集後記

みなさん、こんにちは。今回、初めてJCOMMニューズレターの編集を担当させていただきました。編集を終えて「なんで締切が近づくと取り掛かれへんのかなあ?」という疑問を噛みしめているところです。もう一つの最近の疑問は「なんでどのズボンもウェストがきついかなあ?」です。初めてなので今回は身近な話題で乗り切りました。みなさんと、博多でお会いできるのを楽しみにしております。

一般社団法人 システム科学研究所 東 徹